



編集責任者
松本幸雄



倒産社長失敗の原因とは

ダイヤモンド社から「経営の教科書」という本が出版されました。この本には、倒産した社長が何故倒産したかという内容が書かれています。企業は、創業10年で9割、30年でほとんどがなくなります。倒産の原因を、倒産をした社長の失敗体験から書かれています。その三つのポイントについて述べます。

(1) 傲慢だった

社長が、「会社の仕事の事は、俺が一番よく知っている。業界の事情で分からないことはない。」などと、何でも、自分が一番知っていると過信している社長が一番危険な会社です。確かに、社長は能力・実行力とも社内で素晴らしい働きをしていると思いますが、神様ではありませんから万能というわけにはいきません。その足りない点を部下の社員のお陰で支えられていることに気づかない社長は危ないようです。

筆者の知っているA社でも、社長が一番だと自負するあまり、社員の意見をことごとく否定し、社員の意見をほとんど取り入れないで会議をしている会社がありました。そうすると、社員は言っても無駄と思い会議で発言することがなくなりました。そして、社長の独演会が始まりました。社長からの指示だけを待って、やる気もなく実行するので、全くうまくいかなかったのです。

反対に、うまくいっている会社では、社長が広く社員の意見を聞き、多くの力を結集することの重要性を理解して、社員に感謝して経営をしていました。業績が少しよくなると、最初は謙虚だった社長も、気づかないうちに傲慢に変わるケースが見受けられるようです。

(2) 会社の原理原則の勉強を怠った

どんな業種、どんな規模でも企業経営の80%は共通です。業種や規模の違いはせいぜい20%以下です。だから、再建社長が色々な企業を復活させているのです。ではどんな原理原則

があるかということ、「経営理念やビジョンを社内に浸透させるべきだった」と、倒産社長は言っています。

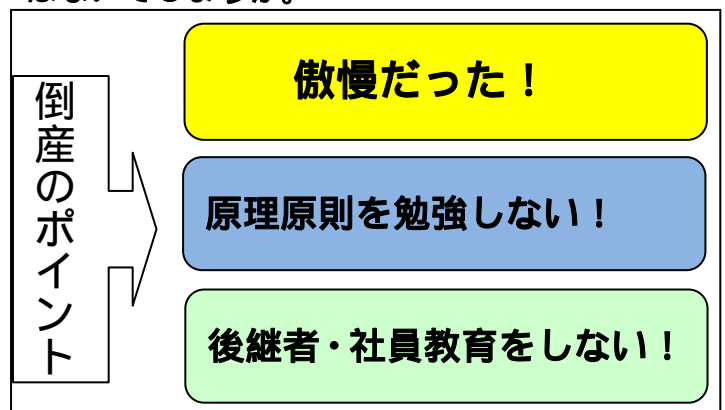
しかし、経営理念を作成したけどうまくいかない会社が多くあります。筆者も仕事柄そのような相談を多く受けます。B社で、社員の方に経営理念やビジョン、行動指針を尋ねると、知らないと答えるかせいぜい印刷した紙を見ながら読む程度です。身体に浸透していないのです！これでは仕事では使えません。

経営理念と経常利益の関係を調査したデータとして、経営理念がない会社が経常利益率が2%なのに対して、ある会社は8%を超えていたという結果がでています。

(3) 後継者・社員を育てなかった

どんな偉大な社長でも後継者・社員を育てられなかったら、会社の存続はありません。会社の存続は、人の育成にかかっています。どれだけ、後継者や社員の教育をやってきたかが、重要であったと倒産した社長は後悔しています。

皆さんの会社ではどのような社員教育をしているのでしょうか。年間計画はあるのでしょうか。個人別に教育計画はあるのでしょうか。私の体験から、教育はスポーツと一緒にだと思います。基礎からだんだんとレベルを上げて、継続的に研修することが確実な教育方法ではないかと思います。また、スポーツと同様、練習を怠るとレベルがどんどん下がってきます。常に現在のレベルより高い目標をもって、計画的に継続的に行うことが効果的ではないでしょうか。



(担当：松本)

トピックス

～地球温暖化対策基本法案の影響は～

地球温暖化防止の基本方針を定める法律「地球温暖化対策基本法」
この法律が企業に与える影響は？

(担当：齋藤)

地球温暖化対策基本法案が可決！

5月14日の衆院環境委員会で、2020年までに温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減する目標を明記した「地球温暖化対策基本法案」が与党の賛成多数で可決されました。

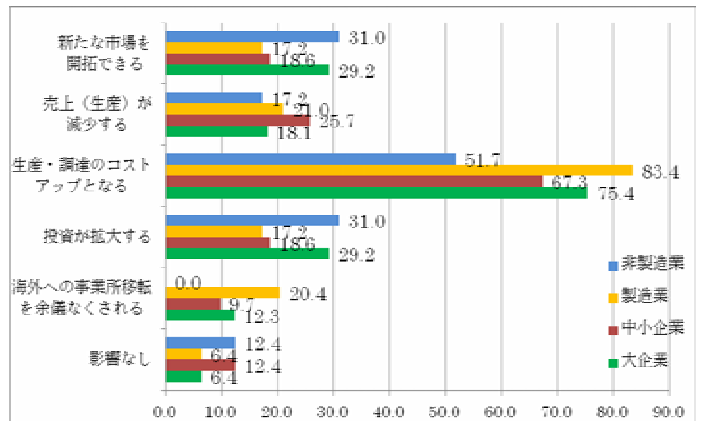
ところが、鳩山前首相が6月2日に辞意表明したことによって、今後の温暖化対策の方向を示すこの法案が廃案になる可能性が濃厚となりました。しかし、環境省の幹部は法案成立にこだわりを見せていることから、いずれは成立する見込みです。

この法案による我々への影響は？

この法案には、企業に温室効果ガスの排出削減を義務づけた上で削減量の過不足を売買する「国内排出量取引制度」を施行後1年以内に創設することが盛り込まれています。国内CO2排出量を抑えるため、省エネルギー設備への置換を行うなど、革新的な省エネ技術の開発・普及がカギとなることは間違いありません。

企業に与える影響に関して、社団法人関西経済連合会が1,170社を対象に行ったアンケートでは、次のような結果が出ています。

【基本法案が企業に与える影響】 出典：社団法人関西経済連合会



新規ビジネスにチャンスあり！

この結果から、コストアップや売上減少が予想される反面、新たな市場開拓のチャンスがあると考えられます。企業が対応すべきこととして、環境に対する分野への新たな取組みが、**新規ビジネスチャンスの大きな契機**となることは間違いありません。

ピンチをチャンスに変えるため、今こそ明確な経営戦略・事業計画が必要と言えるでしょう。

仕事中にちょっと一息



仕事中でも簡単にできるリラクゼーション法をご紹介します。

仕事を長時間続けていると、筋肉が固くなったり、能率が悪くなったりします。そのような時に有効なリラクゼーション法を2つご紹介します。

この方法は心身のリフレッシュやストレスの解消にも効果がありますので、ぜひお試しください。

筋弛緩法

力を抜いてゆっくり呼吸
両肩を持ち上げて力を入れる
10秒数えたら肩の力をストンと抜いて、肩から背中にかけての筋力が緩んでいくのを感じ取ります
(力は全力で入れるのではなく、7～8割程度の力を入れてください)



腹式呼吸法

肺を空っぽにするイメージでゆっくり「フー」と口から息を吐き出します。
すべて吐ききったら2～3秒息を止め、その後、ゆっくり鼻から息を吸います。
肺のすみずみまで空気がいきわたったら、2～3秒息を止め、再び口から吐き出します(これを繰り返しながら、深く眠っている時のように楽に息をすると、全身がリラックスします。)

仕事に疲れてきたら、ちょっとの時間を使って実践してみてください。きっと仕事の能率もあがりますよ。
(担当：米原)



ISO・Pマーク

ISO9001/ISO14001/
ISO22000/ISO27001/
Pマーク(JISQ15001)

経営戦略・事業計画

経営戦略・事業計画、
営業計画・売上利益計画

社員教育・業務改善

業務改善、問題解決力、
リーダーシップ、目標管理、
営業のポイント、コミュニケーション

配布がご不要の方は、失礼いたしました。下記にご一報頂ければ配布の停止をさせていただきます。

TEL：029-246-4671 FAX：029-246-4672 E-mail：info@isommc.com